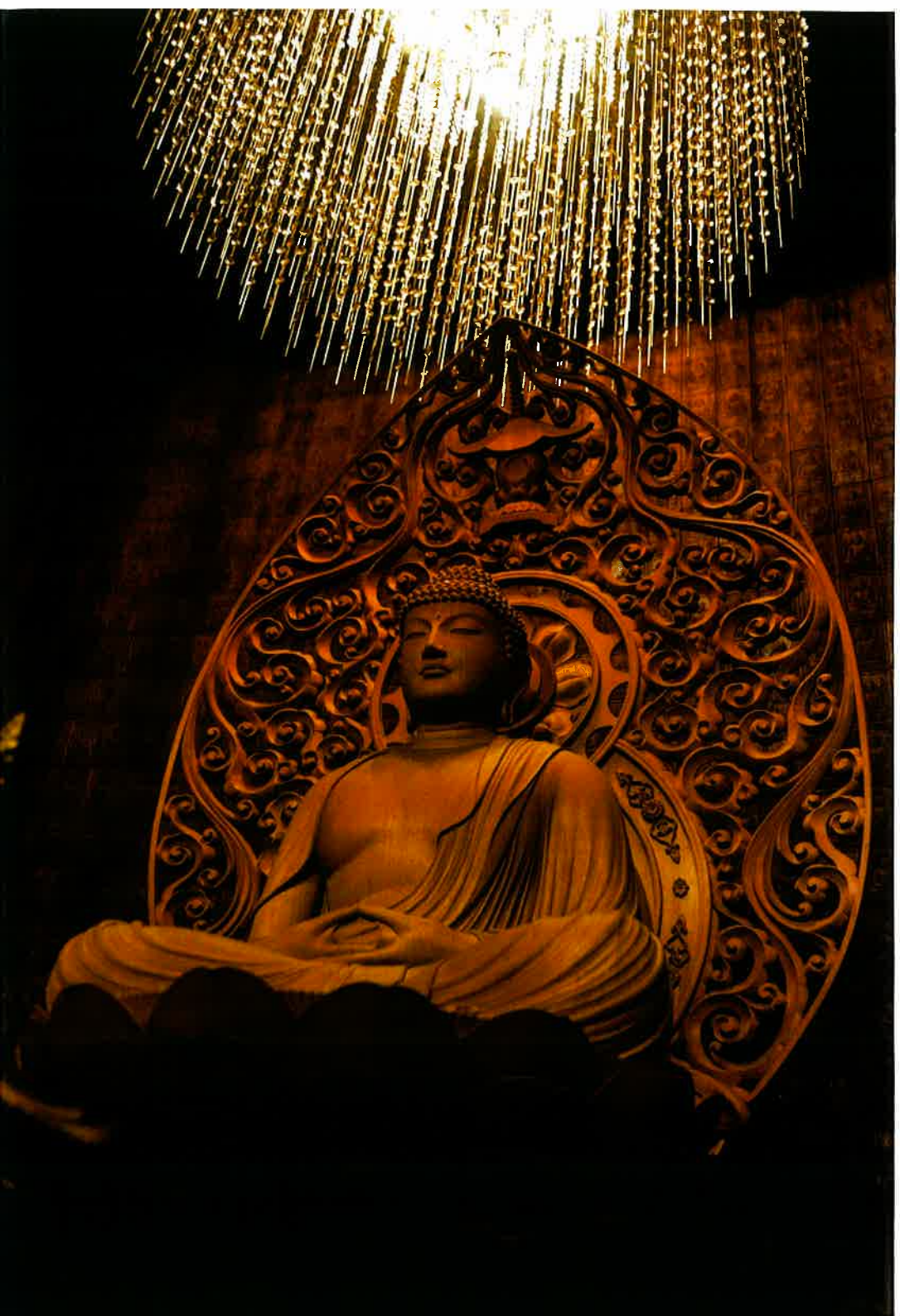

# ■開山忌
# ■第三十一回
# 育英会辞令交付式

善光寺開山忌並びに第三十一回育英会辞令交付式が平成三十年二月九日午後二時より、釈迦殿で執り行われ、関係のご寺院、総代をはじめ檀信徒の方々が多数参列されました。

開山忌法要は、焼香師に本寺光真寺住職黒田泰弘老師をお迎えして厳修され、開山楳庵白純大和尚、二世中興大圓武志大和尚のご遺徳を偲んで参列者一同が追善の誠を捧げました。

黒田泰弘老師はご挨拶の中で、「千利休は『稽古とは、一より習い十を知り十よりかえる、もとのその一』と言われました。我々も上を目指しながら一つ一つを点検して一に戻るとともに、将来に向かって枝葉末節に広がっていくのは有難いこ

と。それが先代武志老師の言葉とともに善光寺では現成しており、先代様もお喜びのはず。育英生の皆さんも民衆の一助、世界平和、個人の安心に向けて一歩一歩進んでほしい」と述べられました。

今年度育英生に採用されたのは、ベトナム人留学生のグェン・タン・ニョンさん、中国人留学生の通然さんと李丹さん、日本人の和田良世さんの四名。育英会理事の安藤嘉則老師による選定経過報告の後、黒田博志理事長の導師により辞令交付式が行われ各々に辞令、育英金、記念品が授与されました。

グェンさんは愛知学院大学に在籍し釈尊の直説とされる経典『スッタニパータ』などパーリ語仏典の研究。通然さんは東洋大学で初期禅宗史の研究に取り組み、李丹さんは二松学舎大学に在籍し、

南宋の禅僧・虚堂智愚の語録研究などに励んでいます。和田さんは、京都大学仏教学専攻後、現在は大谷大学大学院で親鸞思想を研究。アメリカ・カリフォルニア州にある仏教大学院での研究を希望しています。

黒田博志理事長は「師匠は若い頃に海外で修行された際に各地でありがたい仏縁に遭われました。育英事業は若い人達にもこの仏縁を体験してもらい、世界平和に貢献する人材を育てようと始められたものです。四人の育英生には、先代住職の志を汲み取って精一杯精進していただきたい」と語りました。また、辞令交付に先立つ開式諷経の法語では前日の夕方に雪が舞ったことを踏まえ、「雪後の梅花、勝縁を結ぶ」と唱え、育英生を励ましました。

写真：左から和田さん、李丹さん、理事長、通然さん、グェンさん